鈴鹿市立加佐登小学校
学校運営協議会だより
第４号
令和６年２月 20 日発行
学校運営協議会事務局

第５回 学校運営協議会【２月 16 日(金)開催】（報告）

冒頭、委員長から「インフルエンザが流行っている。子ども達には気を付けて生活してほしい。」とあいさつをしていただきました。

学校からは第 35 回読書感想画三重県コンクールにおいて学校賞を受賞したことを報告。また、加小っ子だよりで「災害に備えて」を取り上げ、記事中に小学校区の避難場所等について掲載したところまちづくり協議会で話題として取り上げていただいたことについて、地域の方が子どものことを気にかけてくださるとともに、小学校に関心を持っていただいていることについて、地域の温かさを改めて実感するとともに感謝の気持ちをお伝えしました。

今年度最後の学校運営協議会では、学校関係者評価について、各委員からお出しいただいた意見をまとめ、再度確認をしていただき、さらに今年度の学校評価について熟議を重ねていただきました。

今回の熟議を受け、教職員が次年度への改善点や取組についてまとめていきます。

以下に協議内容をまとめます。

◇学校関係者評価について

○ 中学校で「AI ドリル」を導入していると聞いたが、小学校でも導入されているのか。
→小学校では導入していないが、「ドリルパーク」を使って自動採点が行われたり、進み具合を教師が把握できたりするものを使用している。

○ ICT を使うことで意欲を増す子がいる一方で、うまく使えない子もいる。
そのような子どものことを考えて支援していくと、取り組みの幅が広がるのではないか。

○ キーボードの扱いでは、１本指で打ち込む子どももいる。小さいうちから正しい指使いを教えた方が、将来のために良いのではないか。
→低学年は文字を書いて入力することもある。またローマ字は３年まで習っていないため、ローマ字表を渡して指導する場合もある。どこかの段階で正しい指使いを示すことも考慮していく。

○ 特別支援学級の児童は落ち着いて頑張っている。中学、高校と進むとき、将来の自立と地域でどう生きていくかという社会参画を杉の子では目標としている。特別支援のお子さんをもつ小学校の保護者は情報量が少ない。将来の選択肢の一つとして、早い段

階で支援学校を見学に来るなど、子どもの将来の展望を広げることで、小中高とスムーズにつながっていく。

○ 白鳥中でも話題に出たが、地域であいさつが返ってこない。
しかし、恥ずかしかったり照れくさかったりするので、ていねいに継続して声をかけていきたい。

○ 子ども達は地域であいさつをする確率は高いと感じている。恥ずかしがって声は小さくても、口は動いている。

○ 学校外のことになるが、安全安心な遊び場がないのではないか。全ての施設に制限がある。昔とは遊びの質が変わり、会ったり集まったりしなくてもオンラインのゲームでつながって遊べる。学校は会ってコミュニケーションをとる大切な場となっている。

○ 学習ボランティアの方は、やる気はあるが働いている方も多く、都合がつかないことが多い。たくさんの方に登録をしてもらって、一斉に連絡を入れて都合の良い方に参加してもらえるよう、集団母数を増やしていけるとよい。学習ボランティアというと、何か教えなくてはならないとハードルを高く感じる方もいる。募集のチラシに、「針に糸を通すお手つだい」「たんけんに一緒に歩く」など具体的な活動を入れ、簡単だとアピールをして登録を増やしていけるとよい。

○ 働き方では、切り捨てる仕事も必要である。残業が常態化していないか見直していくとよい。

会議の最後に、教育委員会からつぎのようにまとめていただきました。

早いものでもう２月の半ばとなり、６年生を送る会の時期になった。
皆さんに加佐登の子ども達への教育をしてもらった。学校関係者評価に対して、お忙しい中こんなにたくさんの意見をいただくからこそ改善につながっていく。

たくさんのご意見をいただいたからこそ、「書いたが生かされていない」と思うことがあるかもしれない。全てを一度に改善するのは難しいかもしれないが、声を届け続けてほしい。

クロムブックを子ども達は使いこなしている。また宿題で音読やリコーダーを録画したり、朝顔の観察を写真で撮って記録したりするなど新たな活用がされている。道具としてどう使っていくか検討していくとよい。

また、能登半島地震があったことから、避難の大切さだけではなく、避難の後の生活の大切さも考えていかなくてはならない。水がなくなった場合などを想定して地域の人と考えていく時期である。たくさんのご意見ありがとうございました。